

漁業協同組合と

自己点検の意義

JFをリードする経営者および職員の方々は、どのようなJFを理想とし、日々その実現を目指されていますか。

収益性や安全性の数値で理想の組織の姿を表すことも可能でしょうが、質の面で表現すれば、どうでしょう。

種々の意見がありますが、私の見解を述べれば、理想の組織とは高い目標や価値観を共有し、組織を構成する全ての人が目的志向で結ばれ、各自が自分自身と組織を成長させるために、今何をすべきかを常に意識し、考え、行動する組織です。

しかし現実には、このような組織を編成・運用することは容易ではありません。この理想の姿からの乖離（差）を基準として組織の特性を分類すると、「番理想とは遠いレ

ベルの組織は『与えられた業務を日々漫然とこなす組織』です。それよりは少し理想に近い組織は『決められたあるいは求められた業務をそつなく忠実に実行するタイプの組織』です。町役場や市役所、県庁をイメージしてください。このタイプの組織が悪いとは決めつけられません。現実には多くのJFの経営者・管理者の皆さまは内部統制等を駆使し、自分の組織に与えられた業務を忠実に実行するこのタイプの組織にするよう日々努力をしていると推測されます。

しかしながら、JFグループが目指す組織として、このタイプの組織では物足りません。JF綱領が示す崇高な目的を掲げるわれわれの組織では、この段階で満足す

ることなく、目的実現のために理想の組織を目指さなければなりません。

ただし一気に理想の姿に到達することは不可能です。無理をすれば、すぐに元に戻ってしまいます。まずは『業務をガラガラと漫然とこなす組織』を第「段階」とすると、このタイプの組織は第「段階」の『忠実に業務を遂行する組織』を目指し、第「段階」の組織は第三段階の理想の組織を追い求めるといった段階的なアプローチが必要になります。

JFを自分たちの力で、自主的に理想の組織の姿に「歩」でも近づかせるためには、自分の組織の姿を冷静に見つめ直すことが何より必要です。自分を見つめなおすことが自己点検の目的であり、また自己点検を実施する意義です。



JF 全国監査機構
監査委員長
おのみまさゆき
近江正幸